

# すかい

地域を見つめる経済情報誌

## 長野しんきん 北信地区経済動向

2024  
令和6年  
4-20  
No.620

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

### 景況調査レポート



戸倉宿キティパーク  
(千曲市戸倉)  
セツブンソウ

セツブンソウは関東以西に分布するキンポウゲ科の球根植物で、2～3月に可憐な花を咲かせます。環境省が準絶滅危惧に分類していることもあり、各地で保護活動が活発に行われています。ここ千曲市でも地元の方々が熱心に保護活動を続けています。花びら(花弁)のように見える白い部分は「がく片」で内側の黄色い部分が花弁です。がく片は右側の花のように5枚が通常ですが、左側の花は10枚もあり、とても珍しいとのことでした。

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラー  
にてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)

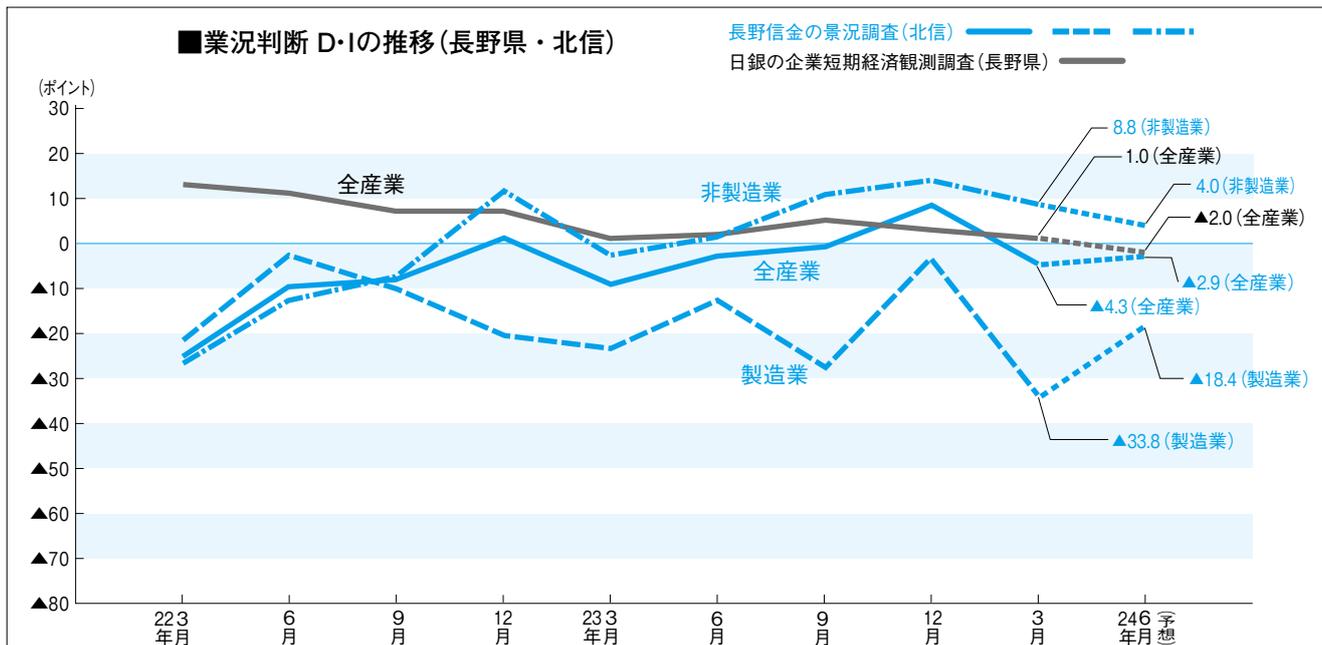


- 長野しんきん 景況調査レポート ..... 2
- 企業アンケート 「賃上げ」① ..... 6
- 生活者アンケート 「物価高の影響」① ..... 9
- 北信濃 明治時代の風景 (25) 中野 ..... 10

 長野信用金庫

# 景況調査レポート 概況 (第195回景況アンケート調査)

◆長野県北信地区◆2024年1～3月期…景況の現状◇2024年4～6月期…景況の見通し



D-I指数は、業況について「良い」とする企業割合から「悪い」とする企業割合を引いた数値(四半期ごとに実施する景況アンケートに基づく)

## 全産業+9 → ▲4 製造業、非製造業ともに悪化

2024年1～3月期の業況判断D-Iは、全産業で13ポイント悪化して▲4となりました。製造業は31ポイント悪化の▲34、非製造業は5ポイント悪化の+9です。

2024年4～6月期の全産業の業況判断D-I(予想)は、1ポイント改善の▲3となりました。

### ◆北信地区の1月～3月期の業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
全産業	+9	▲4 (13ポイント悪化)	▲3
製造業	▲3	▲34 (31ポイント悪化)	▲18
非製造業	+14	+9 (5ポイント悪化)	+4

## 非製造業+14 → +9 建設業・サービス業が悪化

非製造業の業種別業況判断D-Iは、建設業が+11(前期比▲8ポイント)、卸小売業が▲5(同横ばい)、

### ◆非製造業の業種別業況判断D-I

	前期	今期	来期(予想)
非製造業	+14	+9 (5ポイント悪化)	+4
建設業	+19	+11 (8ポイント悪化)	+8
卸小売業	▲5	▲5 (横ばい)	▲12
サービス業	+28	+20 (8ポイント悪化)	+15

サービス業が+20(同▲8ポイント)となり、建設業・サービス業が悪化しています。

### ◆売上高D-Iと収益判断D-I

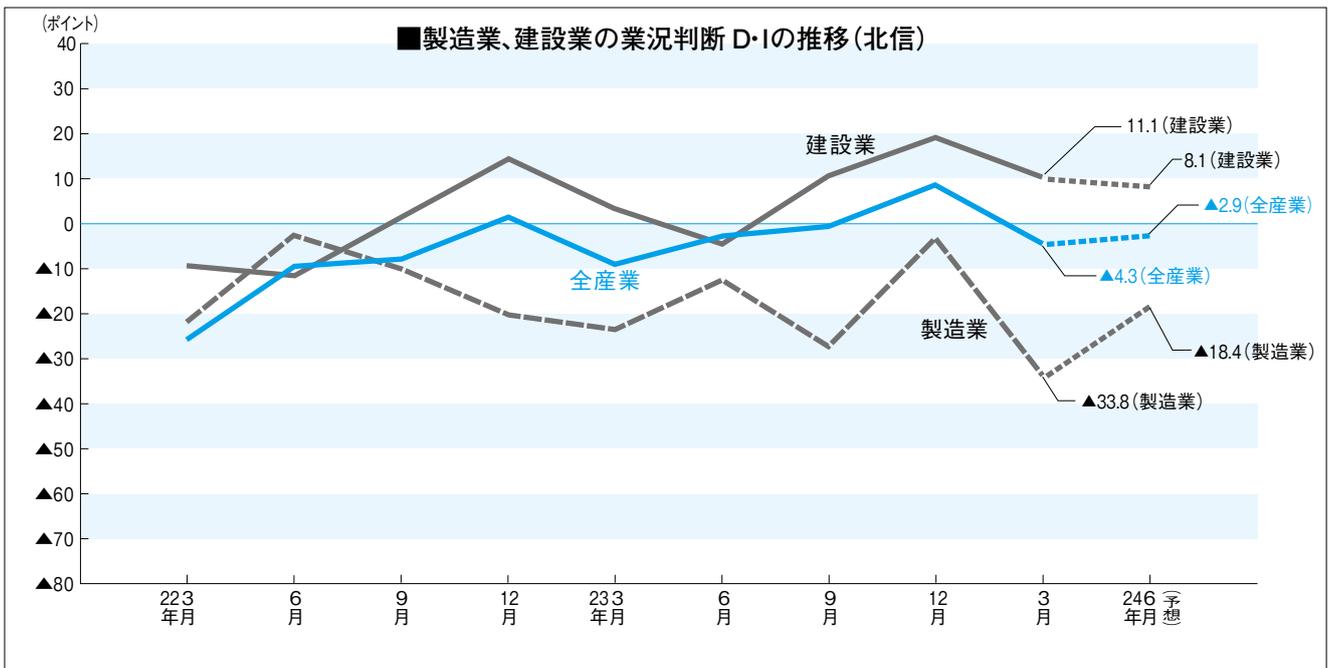
	売上高D-I(「増加」-「減少」)		収益判断D-I(「増益」-「減益」)	
	前期	今期	前期	今期
全産業	+14	▲24(悪化)	+5	▲24(悪化)
製造業	+6	▲35(悪化)	+2	▲41(悪化)
非製造業	+18	▲19(悪化)	+6	▲16(悪化)

### ●北信地区の業況判断D-Iの推移

	2023年6月	9月	12月	3月	2024年6月(予想)
全産業	▲2.9	▲0.9	+8.6	▲4.3	▲2.9
製造業	▲12.6	▲27.7	▲3.2	▲33.8	▲18.4
非製造業	+1.3	+10.9	+14.0	+8.8	+4.0

### 【調査要領】

- 調査実施……2024年3月
- 調査対象企業(回収)
  - 製造業……66社
  - 建設業……63社
  - 卸小売業……43社
  - サービス業……41社
- 合計……213社
- 回収率……87.7%
- 従業員規模
  - 30人未満……77.0%
- 分析…D-I判断指数を中心に分析



### 製造業の景況

31%悪化して▲34に、来期は改善の予想

製造業の1～3月期の業況判断D・Iは▲34で、前期(▲3)に比べ31%悪化となりました。4～6月期は今期より15%改善の▲18の予想です。

(前期)	10～12月期	▲3
◆業況判断D・I	(今期) 1～3月期	▲34
	(来期) 4～6月期	▲18(予想)

#### ◇業種別業況判断D・I

悪化 食料品・木材木製品・金属加工・一般機械・自動車部品・精密機械

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲41(43%悪化)

「増益」割合 前期 23% → 11%(12%減少)

「減益」割合 前期 21% → 52%(31%増加)

◆現在の採算状況…悪化

「利益確保」 前期 42% → 35%(7%減少)

「収支トントン」 前期 48% → 46%(2%減少)

「赤字」 前期 10% → 19%(9%増加)

#### 企業からのコメント

- ☆★急激な原材料高はひとまず落ち着き、単価を上げた分の収益を確保できるようになった。今後は物価高、賃上げ等の支出増加をどのように単価に反映させていくかが課題である。(精密板金部品)
- ☆★コロナの改善に伴い、売上が改善してきたが、円安傾向と各地の紛争で、将来の経済安定は見通し難い。(精密機械)
- ☆★半導体関連、中国の影響等から取引先の業況は厳しさが窮える状況だが、当社においては自力奮闘し、増収増益予想。(電子機器加工)

### 建設業の景況

8%悪化して+11に、来期も悪化の予想

建設業の1～3月期の業況判断D・Iは+11で、前回(+19)に比べ8%悪化しています。4～6月期は今期より3%悪化の+8の予想です。

(前期)	10～12月期	+19
◆業況判断D・I	(今期) 1～3月期	+11
	(来期) 4～6月期	+8(予想)

◇業種別	総合建設	前期 +50 → +46(4%悪化)
	土木工事	前期 ▲23 → +7(30%改善)
	建築	前期 +11 → ▲10(21%悪化)
	各種設備	前期 +38 → +22(16%悪化)

◆収益判断D・I(「増益」-「減益」)…▲8(12%悪化)

「増益」割合 前期 18% → 17%(1%減少)

「減益」割合 前期 14% → 25%(11%増加)

◆現在の採算状況…横ばい

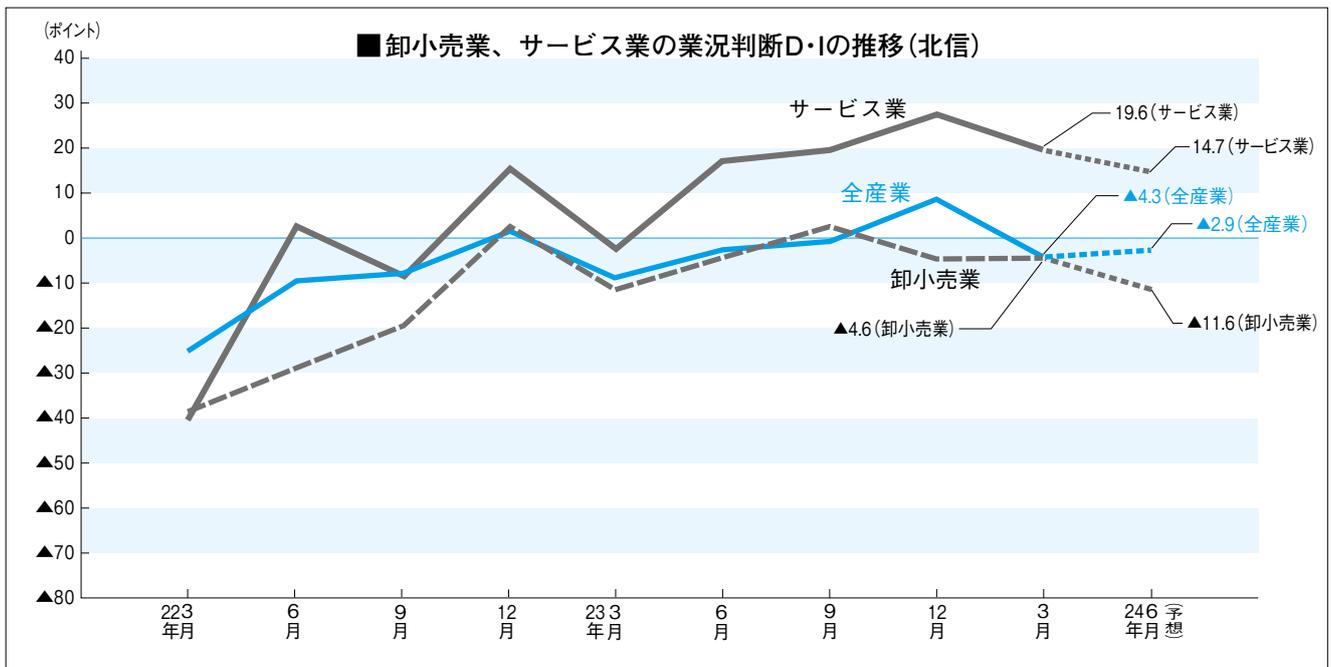
「利益確保」 前期 57% → 56%(1%減少)

「収支トントン」 前期 37% → 41%(4%増加)

「赤字」 前期 5% → 3%(2%減少)

#### 企業からのコメント

- ★人手不足・成り手不足とともに、職人の高齢化が深刻となってきている。加えて材料費の高騰により粗利確保が課題となっている。
- ★建材価格の上昇が続いており収益が厳しい。コンクリート材の値上げが痛手である。
- ☆★建築は箱物が少なく、大型物件はマンションのみで分譲も減っている。長野市内は土地がなく、千曲市の物件が動いている。(以上、総合建設)



## 卸小売業の景況

横ばいの▲5、来期は悪化の予想

卸小売業の1～3月期の業況判断D-Iは▲5で、前回(▲5)に比べ横ばい。4～6月期の業況判断D-Iは7割悪化の▲12の予想です。

◆業況判断D-I	(前期) 10～12月期	▲5
	(今期) 1～3月期	▲5
	(来期) 4～6月期	▲12(予想)

◇業種別	卸売業	前期 ▲5 → ▲11 (6割悪化)
	小売業	前期 ▲4 → ±0 (4割改善)

◆収益判断D-I(「増益」-「減益」)…▲26 (17割悪化)

「増益」割合	前期 16% → 10% (6割減少)
「減益」割合	前期 26% → 36% (10割増加)

◆現在の採算状況…改善

「利益確保」	前期35% → 36% (1割増加)
「収支トントン」	前期44% → 48% (4割増加)
「赤字」	前期21% → 17% (4割減少)

### 企業からのコメント

★建設工事の受注件数が減少し、物価も上昇しているので、建設資材販売は苦しい状態。(建設資材卸売)

★販売価格が上がっているが、仕入価格も上がっており、収益面は思うように伸びていない。

(食料品卸売)

★☆新車の納入状況が少し鈍化傾向にあるが、中古車を中心に売れ行きは堅調に推移している。

(自動車販売・整備)

## サービス業の景況

8割悪化の+20、来期も悪化の予想

サービス業全体の1～3月期の業況判断D-Iは+20で、前回(+28)と比べ8割悪化しました。業種別では、観光が改善し、輸送が横ばい、外食・不動産・その他サービスが悪化しています。4～6月期の業況判断D-I(予想)は5割悪化の+15です。

◆業況判断D-I	(前期) 10～12月期	+28
	(今期) 1～3月期	+20
	(来期) 4～6月期	+15(予想)

◇業種別業況判断D-I

輸送	前期 ▲11 → ▲11 (横ばい)
外食	前期 +83 → +30 (53割悪化)
観光	前期 +11 → +17 (6割改善)
不動産	前期 +29 → +20 (9割悪化)
その他サービス	前期 +60 → +50 (10割悪化)

### 企業からのコメント

☆インバウンドが好調で、2月の売上は長野冬季オリンピックの年に次いで過去2番目であった。3月に入り、日本人客も好調である。(温泉旅館)

☆★職人気質の人が多いため、2024年問題により今までのやり方が変わることを嫌うドライバーが多い。働く時間が短くなって喜ぶドライバーは少なく、身体と時間を惜しみなく使う傾向にある。(運送業)

☆★従業員が不足しており、募集をかけるも集まらない状況が続いている。(不動産)

## 雇用情勢 1～3月期

### 建設・卸小売・サービス・輸送・不動産が改善

従業員の過不足感(「過剰」-「不足」)は、全産業で▲40となり、前回(▲43)に引き続き、不足感が顕著となっています。

#### 雇用情勢 (「過剰」-「不足」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)
全産業	▲42.5	▲39.7
製造業	▲19.3	▲22.3
建設業	▲53.6	▲50.8
卸小売業	▲34.9	▲23.7
外食業	▲55.6	▲80.0
サービス業	▲100.0	▲83.3
輸送業	▲77.8	▲66.6
不動産業	▲71.4	▲40.0
観光業	▲66.6	▲66.6

## 資金繰り 1～3月期

### 外食・サービス・輸送・観光が改善

資金繰り状況判断(「楽である」-「苦しい」)は、全産業で▲17となり、前回(▲15)に比べ僅かに悪化しています。

#### 資金繰り (「楽である」-「苦しい」)

業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)	来期(4～6月)
全産業	▲15.2	▲17.4	▲18.6
製造業	▲14.5	▲21.3	▲20.6
建設業	▲5.3	▲8.5	▲10.1
卸小売業	▲23.2	▲33.4	▲39.1
外食業	▲14.3	±0	+10.0
サービス業	▲20.0	±0	▲16.7
輸送業	▲33.3	▲22.2	▲22.2
不動産業	±0	▲10.0	±0
観光業	▲33.3	±0	▲16.6

## 販売価格動向 1～3月期

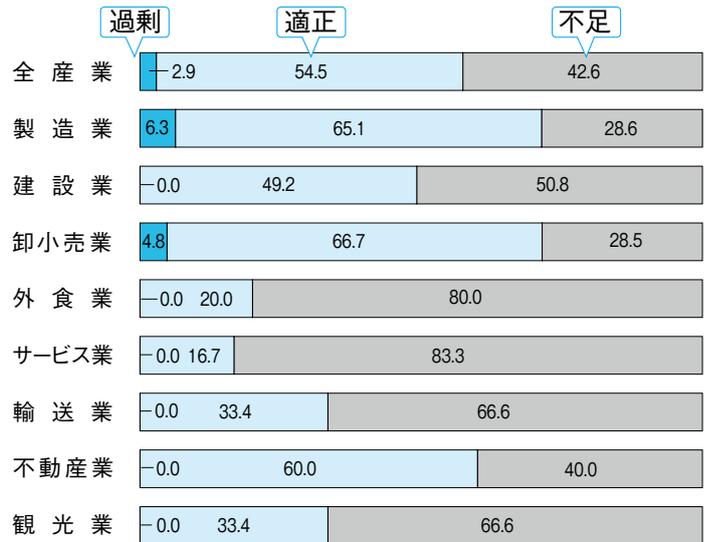
### 製造・建設が上昇

販売価格動向(「上昇」-「下降」)は、全産業で+28となり、前回(+32)に比べ4ポイント減少したものの価格の上昇傾向が継続しています。

#### 販売価格動向 (「上昇」-「下降」)

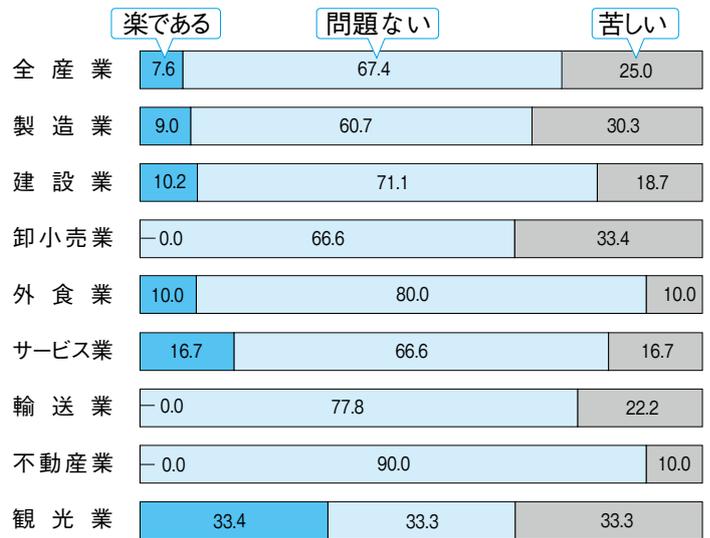
業種	前期(10～12月)	今期(1～3月)	来期(4～6月)
全産業	+32.0	+28.4	+26.1
製造業	+17.7	+21.2	+12.7
建設業	+18.2	+32.2	+30.5
卸小売業	+67.5	+42.9	+35.0
外食業	+42.9	+20.0	+40.0
サービス業	+40.0	+33.3	+50.0
輸送業	+22.2	+22.2	+33.3
不動産業	+28.6	+10.0	+30.0
観光業	+44.4	+16.6	±0

#### 従業員の過不足感 (%)



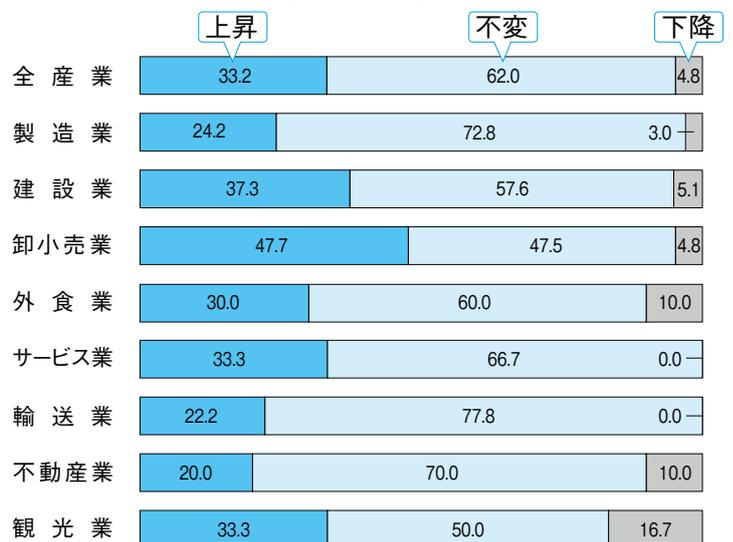
(資料:当金庫)

#### 資金繰り状況感 (%)



(資料:当金庫)

#### 業種別販売価格動向(対前期) (%)



(資料:当金庫)

2023年度の「賃上げ実施状況」

「実施した」55% 「実施しなかった」32% 「検討中」14%

企業アンケート  
「賃上げ」①  
2024年3月調査

賃上げの「内容」

「定期昇給」52% 「ベースアップ」48% 「賞与(一時金)の増額」34%

「2023年度の賃上げ状況」 「実施した」55%、「実施しなかった」32%、「検討中」14%でした。

「賃上げの内容」 「定期昇給」が52%、「ベースア

ップ」が48%、「賞与(一時金)の増額」が34%、「新卒者初任給の増額」が3%、「再雇用者の賃金の増額」が4%となりました。

2023年度の「賃上げ実施状況」

「実施した」55%

「実施しなかった」32%

「検討中」14%

「2023年度に賃上げの実施状況」を聞きました。

「実施した」は半数強の55%、「実施しなかった」は3割ほどの32%、「検討中」は14%でした。

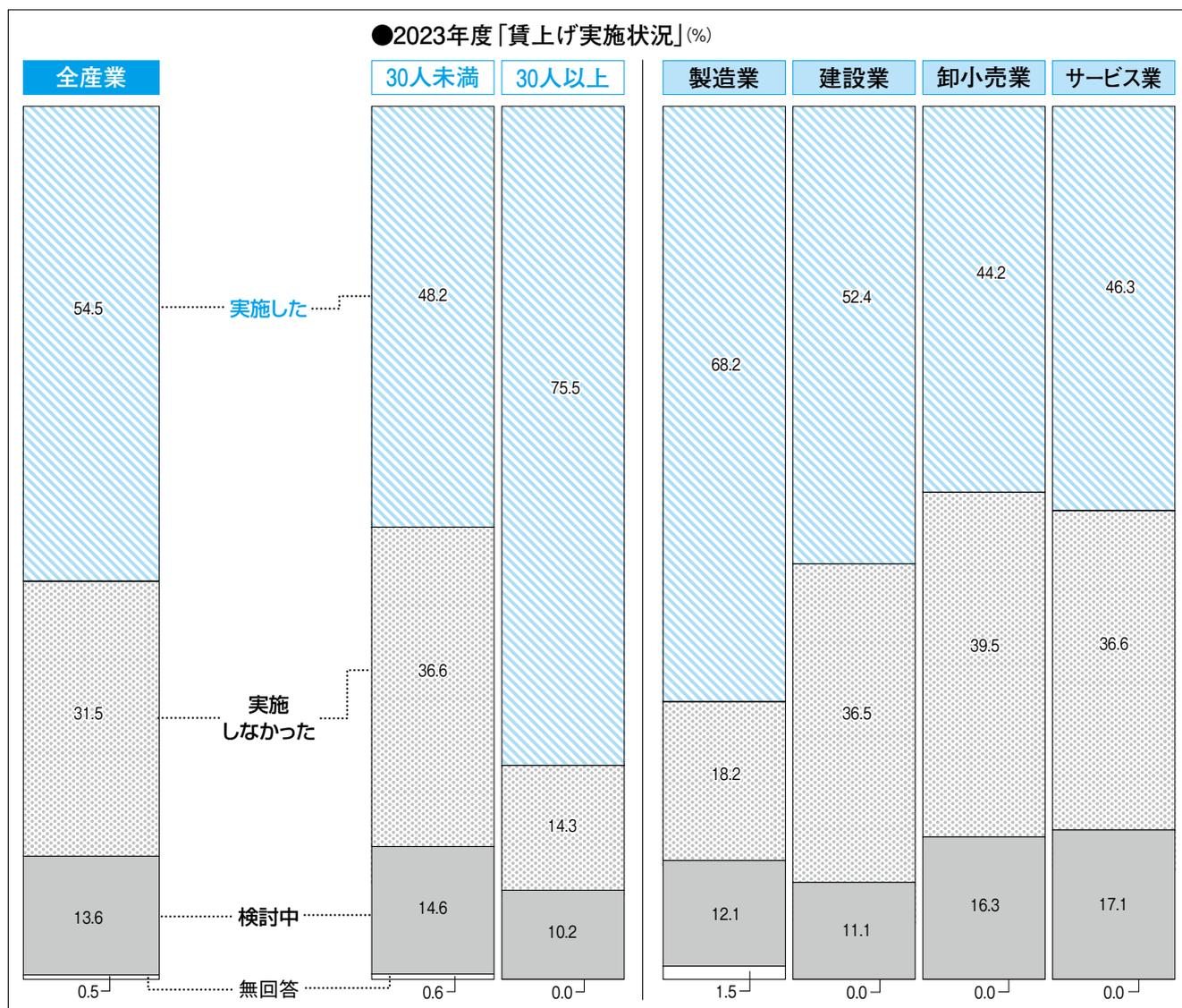
「実施した」企業を従業員規模で見ると、30人以上の企業の76%に対し、30人未満の企業では48%にとどまり、27%の差がありました。

業種別

「実施した」製造業がトップ

「実施しなかった」卸小売業がトップ

◇ 4業種の状況



**製造業** 「実施した」(68%)は4業種の中で最も高くなっています。

**建設業** 「実施した」(52%)は4業種の中で2番目に高くなっています。

**卸小売業** 「実施した」(44%)は4業種の中で最も低くなっています。

**サービス業** 「実施した」(46%)は4業種の中で2番目に低くなっています。

雇用者の賃金の増額」(4%)、「新卒者初任給の増額」(3%)、「その他」(3%)となりました。

従業員規模で見ると、30人未満は「定期昇給」(54%)が9割、30人以上より高く、30人以上は「ベースアップ」(65%)が24割、「新卒者初任給の増額」(8%)が8割、「再雇用者の賃金の増額」(8%)が6割、「賞与(一時金)の増額」(35%)が2割、30人未満より高くなっています。

### 賃上げの「内容」

「定期昇給」52%

「ベースアップ」48%

「賞与(一時金)の増額」34%

「賃上げを『実施した』企業に内容はどんな形か」について聞きました。

「定期昇給」(52%)がトップで、以下「ベースアップ」(48%)、「賞与(一時金)の増額」(34%)、「再

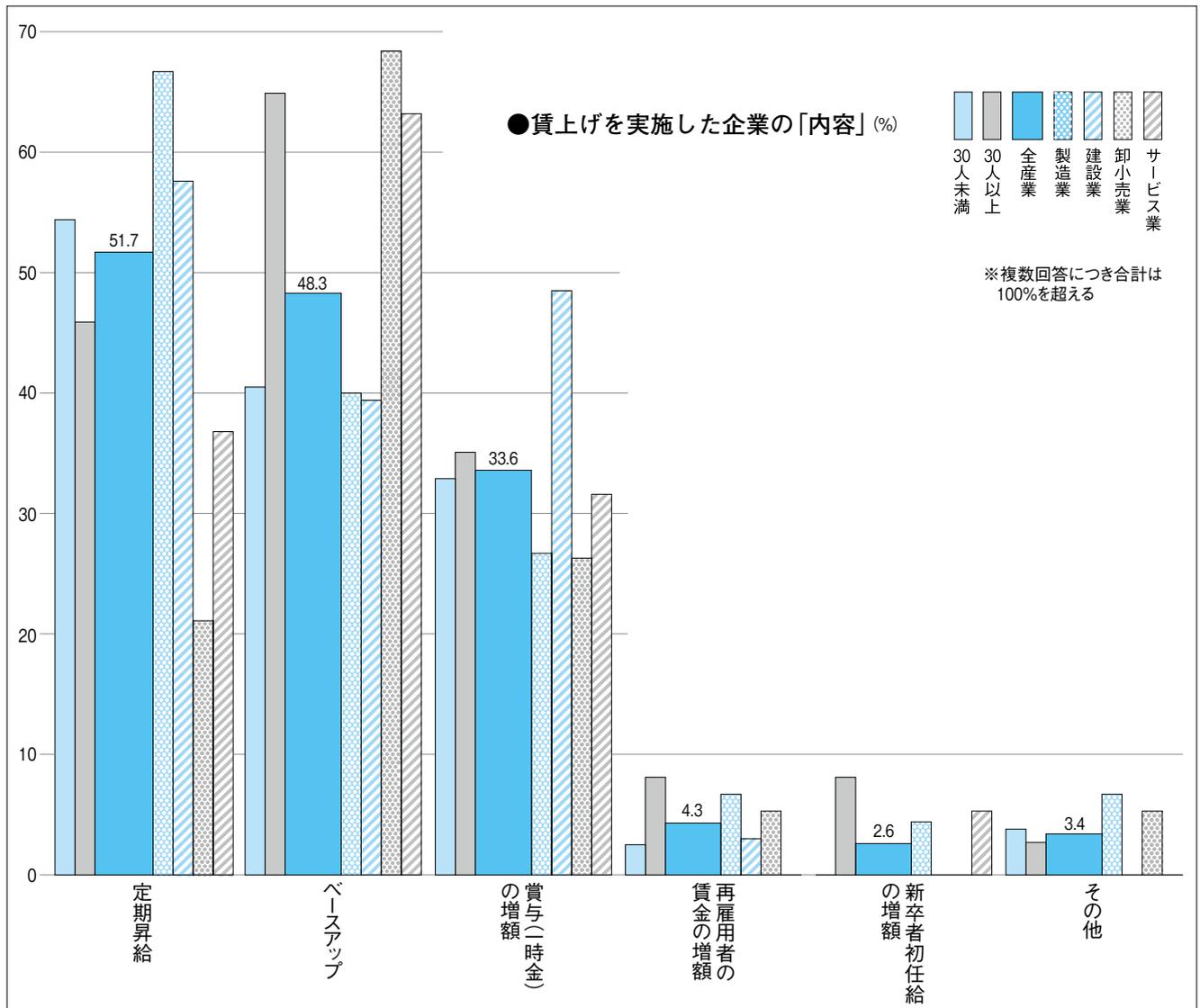
### 業種別

製造業は「3項目」でトップ

#### ◇4業種の状況

**製造業** 「定期昇給」(67%)、「再雇用者の賃金の増額」(7%)、「その他」(7%)は4業種の中で最も高くなっています。

**建設業** 「賞与(一時金)の増額」(49%)は4業種の中で最も高く、他方「ベースアップ」(39%)、



「新卒者初任給の増額」(卸小売業とともに0%)、「その他」(サービス業とともに0%)は4業種の中で最も低くなっています。

**卸小売業** 「ベースアップ」(68%)は4業種の中で最も高く、他方「賞与(一時金)の増額」(26%)、「定期昇給」(21%)は4業種の中で最も低くなっています。

**サービス業** 「新卒者初任給の増額」(5%)は4業種の中で最も高くなっています。

◇次号は「賃上げを行った理由」と「賃上げを行わなかった理由」予定

**[調査要領]**

実施期日：2024年3月上旬～中旬

実施方法：第195回景況アンケート調査に併記

調査企業：回収213社(製造業66社、建設業63社、卸小売業43社、サービス業41社)  
うち従業員30人未満164社(77.0%)

**「賃上げ」に関する企業からのコメント**

**製造業**

- ◇政府は「賃上げを行え」と言うが、円安のほか経済環境が悪く、給与アップの原資がない中、企業の衰退が危惧される。
- ◇売上が増加していない状況で、賃上げを行うのが非常に辛い。人手の確保のためにやむを得ないが、経営基盤の強化が急務であり、それが実行できないと将来が不安である。
- ◇当社はしっかりと値上げが出来ているが、今後の状況がどう変化するのか注視している。
- ◇賃上げしても控除されるものが多く、社員の実感として増えた気がしていない様子。3月から若い人達は健康保険料が上がるため、また手取りが減るようだ。(以上、食料品)
- ◇中小の下請け業者にとって、賃上げ分を製品等に価格転嫁することは現実的に難しい。(プラスチック製品)
- ◇大手企業ばかりが目立って賃上げを実施してしまうと、中小企業に人材が興味を示さなくなる危険がある。政府・経済団体には「バランスのとれた賃上げと人材分散」を検討してほしい。(精密板金部品)
- ◇得意先に申請中の単価改定(値上げ)が実行されたら、賃上げを検討するつもりである。(鑄造)
- ◇最低賃金が上がることによって、今までベテラン社員との均衡がある程度保たれていたものが逆転をしないまでも差が限りなく小さくなっていると思う。(精密機械)

**建設業**

- ◇利益率が上昇しないと、大幅な賃上げは難しい状況である。
- ◇国が賃上げを促進するのであれば、中小企業に対しての補助が必要である。(以上、建築業)
- ◇毎年、昇給をしているので、さらに所得を上げていくとすれば賞与のアップしか出来ないと思う。(総合建設業)
- ◇建設業の人件費は、県が公表する労務単価に基づ

いており、ほかの業種とは大きく異なるのに、メディアが「平均5%」とか報道するので、「なぜウチは上がらないのか?」となる。(土木業)

**卸小売業**

- ◇物価高騰と税金・保険料負担が重く感じられ、賃金の上昇分が素直に実感として所得増とならない。大変にもどかしく感じている。(自動車小売)
- ◇サービス業、販売業にとって働き方改革は頭が痛い。今後、コロナ禍での借入れの返済が問題である。(土産品小売)
- ◇賃金の増加が、物価の上昇に追いついていないと思う。(建材卸売)
- ◇賃上げ実施も検討しなければならないが、業況的に賃上げが難しく、何か補助等があればありがたい。(自動車販売)
- ◇自社商品の値上げを実施しているが、完全に値上げが出来てから賃上げについて考えたい。(健康食品卸売)
- ◇パートの賃上げが優先で、社員の賃上げは後手に回っているのが実状となっている。(青果卸売)

**サービス業**

- ◇会社に余裕がなく、厳しい状態。人材の確保にも苦勞している。(ホテル)
- ◇業績も上がり、給与も上がるのが理想。その相乗効果を期待したい。(不動産)
- ◇雇用の維持確保のために賃上げは必須だと考える。(貸ビル業)
- ◇2024年問題への対応として、給与水準の維持の方法について検討しているが、業況等も考えると対応は難しい。
- ◇時間＝給与の考えが通用しなくなり、能力・価値に対して給与が決まる形にしなければならなくなってきた。仕事の生産性・効率性を高められる人だけではないのが問題になりそうである。
- ◇少しずつ値上げの要望に応じてくれる荷主が多くなってきた。(以上、運送業)

◆諸物価の上昇による「家計への影響」

「苦しくなった」69% 「以前と変わらない」28% 「楽になった」0.3%

◆給与アップや一時金等により「家計の収支は増加」したか

「増加」18% 「変化なし」68% 「減少」12%

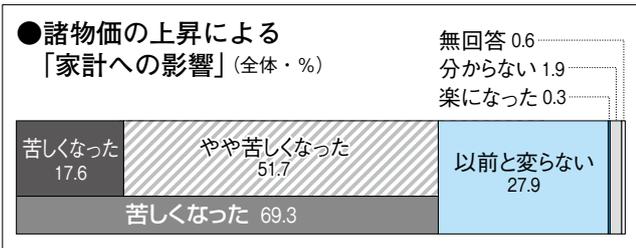
生活者アンケート  
「物価高の影響」①  
2024年3月調査

「諸物価の上昇による、家計への影響」を聞きま  
した。

「苦しくなった」18%と「やや苦しくなった」52%  
を合わせた「苦しくなった」は69%、「以前と変らな  
い」は28%、「楽になった」は0.3%でした。

男女別で見ると、男性の「苦しくなった」は69  
%、「以前と変らない」は30%、「楽になった」は0  
%でした。女性は同様に70%、26%、0.7%の順と  
なり大差はありませんでした。

世代別で見ると、10～20代の「苦しくなった」は  
67%、「以前と変らない」は28%、「楽になった」は  
0%でした。、30～40代は同様に73%、25%、0  
%、50代以上は67%、31%、0.8%となり大差はあ  
りませんでした。



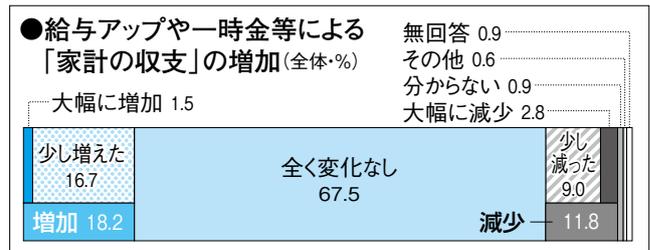
「給与アップや一時金等により家計の収支は増  
加したか」を聞きました。

「大幅に増加」2%と「少し増えた」17%を合わせ

た「増加」は18%、「全く変化なし」は68%、「少し  
減った」9%と「大幅に減少」3%を合わせた「減  
少」は12%でした。

男女別で見ると、男性の「増加」は22%、「全く  
変化なし」は65%、「減少」は12%でした。女性は  
同様に13%、71%、12%の順となり増加が9%の  
差になり、減少は同率となりました。

世代別で見ると、10～20代の「増加」は22%、「全  
く変化なし」は72%、「減少」は4%でした。、30  
～40代は同様に20%、73%、6%、50代以上は15  
%、59%、22%となり世代が上がると増加が減り、  
減少が増えています。



[調査要項]

実施期日：2024年3月上旬～中旬  
実施場所：長野信用金庫本支店窓口  
調査数：323人(男性186人・女性137人)  
調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「物価高の影響」に関する生活者からのコメント

- ◇物価が上昇しても給料等が増える人は一部だと思  
うので、これまで以上に貧富の差が拡大するのではと  
感じる。(20代女性)
- ◇物価が上昇している中、給与は変化がないため苦し  
くなっている。上場企業のベースアップが騒がれて  
いるが、今後の中小企業の動向に注目したい。  
(20代男性)
- ◇食べる量は変わっていないのに、食費がどんどん増  
えている。貯蓄だけでは限界があるので、資産運用  
が必要だと思う。(30代女性)
- ◇物価高は賃金上昇のために必要であれば、ある程度  
は仕方がないとも思う。賃金上昇が幅広く進めば  
いいと感じる。(30代男性)
- ◇賃金の増加が、物価の上昇に追いついていないと思  
う。経済が成長して、人々の生活が豊かになって欲

- しいと思う。(40代女性)
- ◇現在の勤務先で、最近の物価上昇に見合うペアがな  
いと、いよいよ転職を考えざるを得ない状態であ  
る。都市部より、地方の方が影響が大きいと感じ  
る。(40代男性)
- ◇物価が上昇したからといって、必要なものは買わざ  
るを得ないので、支出が増加する分、残るお金は当  
然減る。そうなれば購買意欲が落ち、財布のひもを  
締めるのは必然だと思う。(50代男性)
- ◇必要な物以外はあまり買わないように努めている。  
無駄のない、なるべく節約する生活を心がけたいと  
思う。(60代以上女性)
- ◇教育費が負担になる世代の方々に手厚い支援をしな  
いと、物価上昇が将来の人口形成にも影響するの  
ではないか。(60代以上男性)

# 北信濃 明治時代の風景

## (25) 中野

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



これは明治10年(1877)に作られた中野町(現中野市)の図の、中心部分です。中野にあった県庁は明治4年(1871)に長野に移り、長野県が発足しました。この地図は、県庁が去った6年後に作られたこととなります。道が、東西南北ではなく傾いていますが、縦横に平行に通っていて、人為的に造られた町であることが分かります。

### 日野城古跡

右下に方形に囲まれた区域があって、「日野城古跡」と書かれています。これは鎌倉時代から戦国時代にかけて用いられた<sup>やかた</sup>館跡で、「高梨氏館跡」として国の史跡に指定されています。その規模は東西約130メートル、南北約100メートルもあって、北信でも最大級の館跡です。周囲は土塁によって囲まれています。発掘調査に基づいて庭園等が復元され、現在は高梨館跡公園として公開されてい

ます。

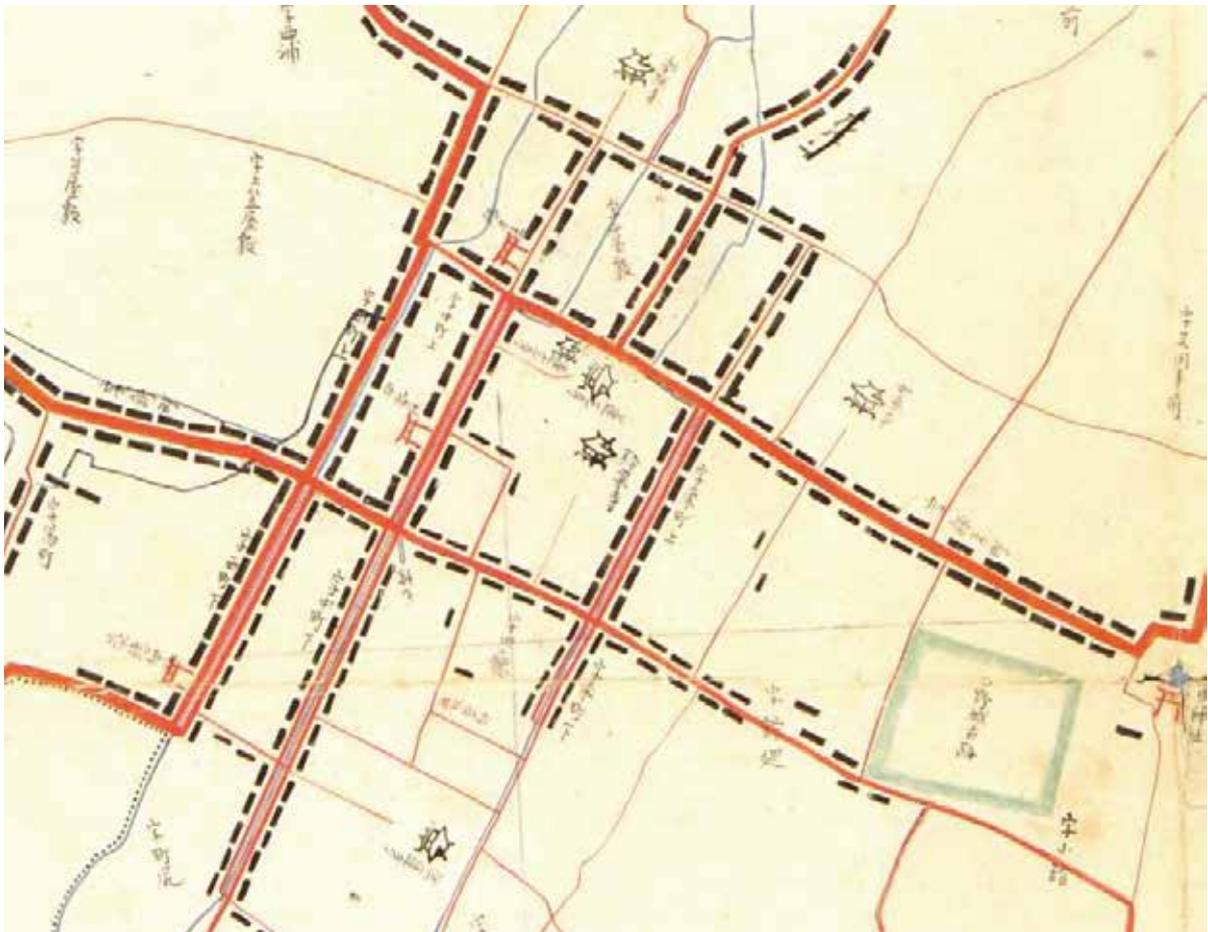
ここに居住した高梨氏は清和源氏の井上氏の一派で、現在の須坂市高梨から起こりました。戦国時代は越後の上杉氏に従い、子孫は尾張藩士となりました。

### 王日神社

「日野城古跡」の右に「王日神社」があります。町名が諏訪町であることから、高梨氏が崇敬していた諏訪社であることが分かります。現在も諏訪の御柱祭にあわせて、寅年と申年に御柱祭が行われています。

### 南照寺

図の左下から北に向かって直線の道路が伸び、その突き当りに「南照寺」があります。その途中には「字中町上」「字中町下」といった地名があって、この道がメインストリートであることが分かりま



中野町の図(長野県立歴史館蔵)

す。西側の道路には「字西町上」「字西町下」があり、東側の道路には「字東町上」「字東町下」とあって、左右対称になっています。

こうした町の構造は、長野市の善光寺門前とよく似ています。「南照寺」は真言宗智山派で、通称を川東善光寺というように、善光寺如来の分身仏をまつる寺です。この寺は、高梨氏によって護持されてきました。整然とした構造を持つ中野の町は、長野の善光寺に倣って、この寺の門前町として整備されたと見ることができます。



「中野陣屋・県庁記念館」前の中野県庁跡(中野陣屋跡)の碑と標柱

#### 中野県庁跡

「字東町下」の左(西)に、「字旧廳」と書かれた一角があって、縦横の線がそこで交差しています。ここが中野県庁の跡で、現在は「中野陣屋・県庁記念館」があります。

ここには元々、天領(幕府領)の中野陣屋が置かれていました。同様の陣屋は中之条(坂城町)にもあって、この2つの陣屋で北信に点在する天領を支配していました。陣屋の周辺には郷宿と呼ばれる、陣屋に来た人が宿泊する宿が何軒もありました。その1つの松田屋は県庁の長野移転に伴って長野に移り、現在は犀北館ホテルとなっています。

#### 中野県から長野県へ

明治元年(1868)信濃の天領は伊那県となり、現在の上伊那郡飯島町に県庁が置かれました。伊那県の北部は明治3年(1870)9月に分離して、中野県となりました。ところが12月に中野騒動が起り、中野県庁(旧中野陣屋)は焼き討ちされて焼失してしまいました。焼失後は南に隣接する「法運寺」が仮庁舎となりました。明治4年2月に中野県の権知事となって赴任した立木兼善は、中野県庁の再建を断念し、県庁を長野に移転させることを政府に願いました。これが6月に認可されて、7月に長野村西町の西方寺に県庁が移転し、長野県が発足しました。

#### 湯町

この図の左端に、「字湯町」と書かれた地区があります。ここは現在の信州中野駅の東方で、文字通り温泉があった場所です。ただしこの地に温泉は湧きません。中野村は100両出して湯田中前川原から湯を引く権利を得て、文政4年(1821)にここに温泉を開きました。数軒の旅館ができ、遊女もいたといえます。ただし2里もの距離を引湯したので、途中で湯温が下がり、ぬるいのが弱点でした。文政5年(1822)にこの地を訪れた小林一茶は、「中野の湯いつ湯になるぞ梅の花」と詠んでいます。しかし結局温度は上がらず、文政7年(1824)に廃業してしまいました。

#### 八方に通じる道路

この中野町の図で気づくのは、道路が蜘蛛の手足のように四方八方に通じていることです。中野が交通の要地であることがよく分かります。中野の町は東側に山が迫っていますが、そこにも箱山峠を越えて湯田中方面に通じる道があり、盛んに利用されました。この図では「日野城古跡」の北側の道で、「王日神社」に突き当たって左折しています。小林一茶がこの峠を越えて湯田中を訪れた記録が残っています。

5月号は「飯山」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)

◆物価高の対策で、家計の中で「出費を減らしたい」項目

「食費」38% 「水道光熱費」34% 「レジャー・旅行費」28%

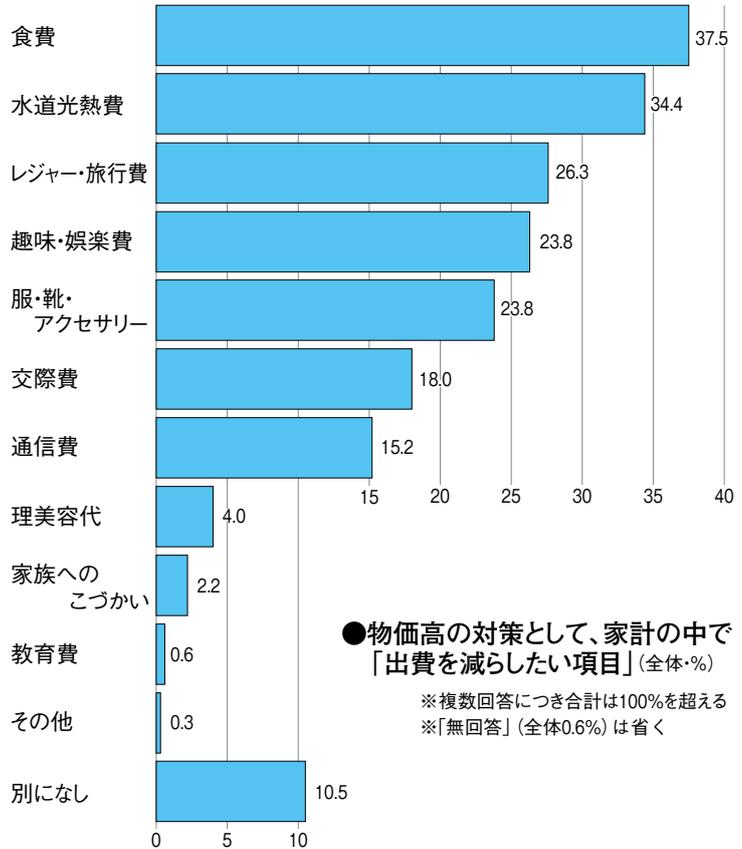
「物価高の対策として、家計の中で出費を減らしたい項目は何か」を聞きました。

全体の1～3位を見ると、「食費」38%、「水道光熱費」34%、「レジャー・旅行費」28%となっています。

男女別で見ると、男性は「趣味・娯楽費」「レジャー・旅行費」「交際費」となり、女性の1位～2位は全体と同じで、3位に「服・靴・アクセサリ」となりました。

世代別で見ると、10～20代は1位～2位は全体と同様で、3位は「趣味・娯楽費」となり、30～40代は全体と同様の順位となり、50代以上は1位は全体と同様で、2位に「水道光熱費」「レジャー・旅行費」が同率という結果となりました。

〈当金庫・2023年3月調査〉



●みなさまの税務相談のご案内 [5月]

(注)上の店名は開催場所、下の( )内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
5月 2日 木	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	5月 21日 火	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)
8日 水	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	22日 水	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
9日 木	大豆島支店 (長池支店)		24日 金	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
13日 月	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	27日 月	本店営業部	
14日 火	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)	28日 火	本 部	
17日 金	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	30日 木	本 部	

